2007.11.10(土)　15:00-18:00　S209

平成19年度後期　第３回教職勉強会

ショート講義；「教師だからこそできること」

教職センター　曽山和彦

１．学校において教師でなければできないことは何か

①人間関係づくり
②進路に関する相談　→　本日は、進路に関するエクササイズの体験を行う。
①学習に関する相談

↑
「人生ハウマッチ？」、「私のしたい10のこと」

・上記三つは日々、子どもに接している教師でないとできない。外部から入るスクールカウンセラー等では難しい領域である。
・教師生活で培ってきた経験だけでは、今の子どもたちの問題に対処することは難しい。そこで、プラスアルファをつけ加えると経験が光るようになる。つまり、教師が使えるようなカウンセリングの理論と技法を是非学んでほしい。
・通常の学級において、子どもにかかわる教師は、ノイローゼやうつ病、精神疾患、夜尿症、チックなどを治すわけではない。この分野は精神科の医者や臨床心理士（スクールカウンセラー）などが担当する分野である。

２．学校において人間関係づくりを進めるにはどうしたらいいか

・「人間関係づくり」というと最初に頭に浮かぶのは「子ども同士の関係づくり」だろう。しかし、その前に「教師と子どもの関係づくり」こそが何よりも優先されなければならない。
・「なぜ、こんなことが必要なのか？」、「こんなのばかばかしい」、「僕はクラスのみんなと仲良くなりたくない。少ない友だちでもいい」というようなことを子どもが言うことがある。これらは皆、「心理的抵抗」である。こうした抵抗は教師と子どもの関係ができていれば防ぐことができる。この関係を抜きにしてエクササイズに取り組もうとすると様々な問題が生ずる。
・どうすれば、教師と子どもの関係づくりがスムーズにいくか？　学期当初、まず、子どもたちに自分のことをわかってもらう工夫をする。「先生への一問一答ゲーム」なども有効。子どもたちの教師理解が進んでいくと、子どもはその教師に安心感を持つことになる。すると、子どもたちは次の段階として自分の心を開くようになる。

３．教師と子どもの関係づくりのコツは何か

(1)教師が自分の「偏り」に気づくこと

・「性格」とも言える部分があるが、教師は自分がどんな性格、傾向があるかに気づいているかどうかで、子どもにかかわる場合、大きな違いがある。どうすれば偏りに気づくか、といえば、周りの人から修正してもらい、柔軟にそれを受け止められるとよい。自分自身、カウンセリングを受け「教育分析」してもらってもよいし、エンカウンターワークショップに参加し、エクササイズを行う中で自分に気づくことも教育分析に匹敵するものである。

(2)「泥棒にも三分の利」‥‥「三分の利」を聴くこと

・悪いこと自体を見逃せというのではない。子どもも悪いということはわかっている。子どもなりの理由、「三分の利」を教師がどれだけ聴いてくれるのかを子どもたちはしっかりと見ていて、「この先生は自分のことをわかってくれるかどうか」を判断している。あまり理不尽な理由の場合には腹が立つこともあろうが、「三分の利」を聴く態度が大切である。

＜参考・引用＞

2000年8月、秋田県総合教育センター研修講座、片野智治先生（跡見女子学園教授）の講義記録より
＊「学校におけるカウンセリングを考える会」(http://www.pat.hi-ho.ne.jp/soyama/index.htm)
2000年学習会講義資料バックナンバー3－１のリメイク版である。